

XI 学部の点検評価および改善のためのシステム

1 授業評価の実施

1-1 学部

1-1-1 平成 23 年度（2011 年度）授業アンケートおよび自己点検評価の実施

(1)平成 23 年度における授業アンケートおよび自己点検評価の実施状況

対象教員数：学部 103 名，実践総合センター2 名，大学院独立専攻 3 名，

保健管理センター2 名，生涯学習センター1 名，計 111 名（学部長を除く）

1)学部専門科目授業アンケート

実施期間（前期）：平成 23 年 8 月 2 日～8 月 8 日，実施科目数 99 科目

実施期間（後期）：平成 24 年 2 月 7 日～2 月 13 日，実施科目数 106 科目

実施科目：教養科目・専門科目（前期）・専門科目（後期）から 1 科目ずつ担当教員が選定

2)教育改善評価書「自己点検評価書（観点 2）」の作成・提出

作成期間：平成 24 年 7 月 4 日～7 月 20 日

提出者：111 名（100.0%）

提出科目数 205 科目（前期 99 科目，後期 106 科目）

評語	S	A	B	C	未記入	計
観点 2	37	167	22	0	107	333
%	11.1%	50.2%	6.6%	0.0%	32.1%	100.0%

3)「教育改善点検評価書」（観点 1・3）の作成・提出

作成期間：平成 24 年 7 月 4 日～7 月 20 日

提出者数：111 名（100.0%）

評語	S	A	B	C	未記入	計
観点 1	18	56	7	0	30	111
%	16.2%	50.5%	6.3%	0.0%	54.1%	100.0%
観点 3	11	25	6	0	69	111
%	9.9%	22.5%	5.4%	0.0%	62.2%	100.0%

1-1-2 授業公開

1)前期授業公開期間：6 月 27 日（月）～7 月 8 日（金）

授業科目名	担当教員	曜日講時	教室	備考
社会と思想	木村 競	月・1	B 2 0 4	
初等社会科教育法研究（C）	木村 勝彦	月・2	B 2 0 3	
初等国語科教育法研究（A）	昌子 佳広	月・3	B 2 0 4	
知的障害児の病理（障害児の病理）	尾崎 久記	月・5	D 1 0 2	
漢文学基礎	増子 和男	火・1	B 2 0 4	

プロジェクト・マネジメント A	木村 競	火・2	A 2 1 2	
漢文学研究法 I	増子 和男	火・3	B 2 0 3	
熱学概論	矢島 裕介	火・5	A 4 2 5	
発達心理学	村野井 均	火・5	A 4 2 2	
倫理学概論	木村 競	水・1	B 3 1 1	
組織の合意	曾我 日出夫	水・2	A 2 2 1	
初等国語科内容研究	橋浦 洋志	木・2	B 2 0 9	
初等書写内容研究 B	齋木 久美	木・2	D 1 0 1	
科学技術と社会	曾我 日出夫	金・1	A 4 3 0	
養護学概論 I	斉藤 ふくみ	金・2	B 1 0 7	
養護実践論	斉藤 ふくみ	金・3	B 3 1 1	7月8日のみ
近現代散文研究 I	橋浦 洋志	金・3	B 2 0 9	
近現代韻文演習 I	橋浦洋志	金・4	B 2 0 9	木 2
社会と思想	木村 競	月・1	B 2 0 4	
倫理学概論	木村 競	水・1	B 3 1 1	

2)後期授業公開期間：11月14日（月）～11月25日（金）

授業科目名	担当教員	曜日 講時	教室	備考
学校教育相談	三輪 壽二	月・2	D102	
環境化学	松川 覚	月・4	B208	
学校における子ども虐待の予防 と防止	数井みゆき	月・5	D201	
体育科教育法研究 (A) (C)	日下・吉野	火・1	体育館	
漢文学概論	増子和男	火・1	B209	
体育科教育法研究 (B) (D)	加藤・吉野	火・2	体育館	
公民科教育法研究 I	木村 勝彦	火・2	A526	
基礎化学	松川 覚	火・2	B311	
漢文学演習 I	増子 和男	火・3	B311	
教育哲学特講	小川 哲哉	火・3	A222	
人間・文化系科目(つながりの力)	木村 競	火・5	共通 26	教養科目
養護実践研究 I	斉藤 ふくみ	水・1	B205	
教育の本質と理念	小川 哲哉	木・1	D101	
体育科教育法研究 (C)	勝本・岡本	木・1	体育館	
臨床心理学	三輪 壽二	木・2	A425	
倫理学特別演習 II	木村 競	木・2	A211	10:00 開始

初等国語科内容研究 A	橋浦 洋志	木・2	B209	
児童文学研究 I	橋浦 洋志	金・3	B205	
英米文学特講 I	小林 英美	金・3	A536	
人間・文化系科目(つながりの力)	木村 競	後期末 まで 火・5	共通 26	教養科目

1-2 大学院研究科

1-2-1 平成 23 年度授業アンケート

前後期ごとに A タイプ・B タイプに分けて実施した結果を下表に示した。

	回答数	「満足」「概ね満足」と答えた割合
前期 A タイプ	44	82%
前期 B タイプ	30	97%
後期 A タイプ	7	87%
後期 B タイプ	23	77%

2 FD 研修

2-1 学部

○「教育の国際化」に関する FD 学習会

日時：2012 年 3 月 2 日（金） 研究科委員会終了後（約 1 時間）

場所：教育学部プレゼンテーションルーム（A219）

主催：教育学部教務委員会・教育学研究科専門委員会

担当：専門委員会・カリキュラム改革小委員会

講師：加藤崇英先生（学校教育教室）

内容：我が国における海外の教員養成に関する研究のレビュー

概略：茨城大学の第 2 期中期計画においては、学部においても研究科においても「教育の国際化」ということが挙げられています（R111b05-4：国際化に対応するカリキュラムの構築と FD R111g06-1：カリキュラムの国際化と FD）。この「国際化」には「国際的に通用する」という意味も含まれています。しかし地域・国ごとの文化・制度に強く規定される教員養成教育においてはその意味は自明ではありません。そこで、まずは我が国において海外の教員養成（教育）がどのように研究されているかということから確認していくことにします。